

イチゴの病害虫の発生状況（11月上旬）

1 うどんこ病

発生ほ場割合は平年並でした（図1）。まん延すると防除が困難になるので、発生初期から防除を徹底してください。

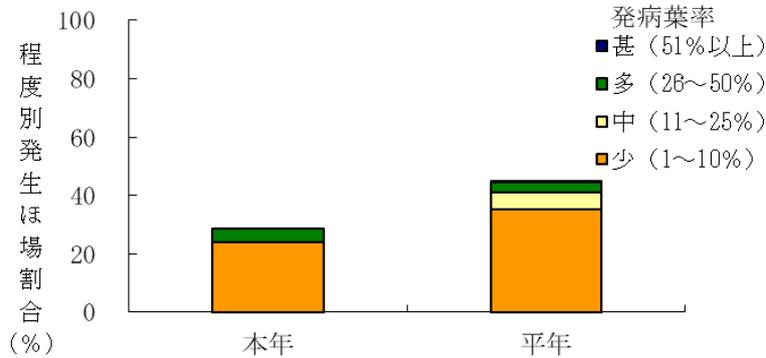


図1 うどんこ病の発生状況

2 土壌病害（炭そ病・萎黄病）

発生ほ場割合は平年並でした（図2）。育苗時に発生し、本ほに持ち込まれたと考えられます。発病株および発病が疑われる株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分してください。

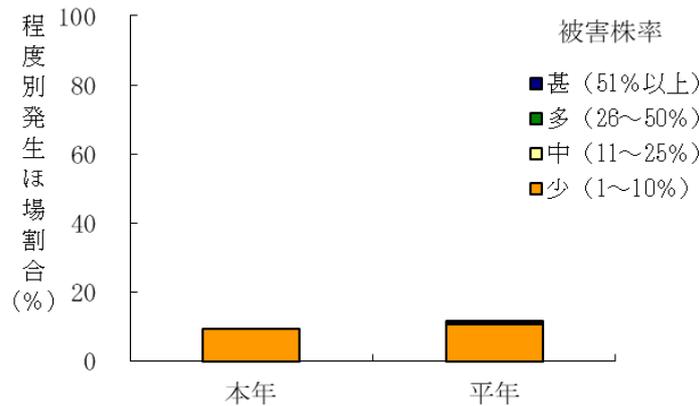


図2 土壌病害の発生状況

3 アブラムシ類

発生ほ場割合は平年並でした（図3）。低密度時から薬剤防除を実施してください。

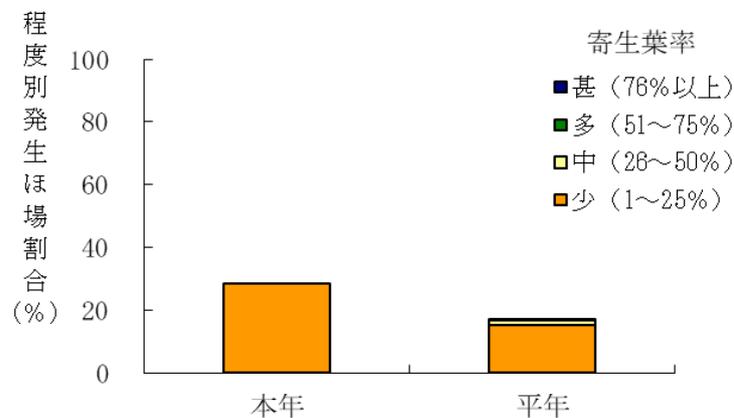


図3 アブラムシ類の発生状況

4 ハダニ類

発生ほ場割合は平年並でした（図4）。早期発見に努め、低密度時から防除を実施してください。抵抗性の発達が懸念されるので、薬剤の選択には注意してください。また、ハダニ類の防除にチリカブリダニやミヤコカブリダニを放飼している場合には、天敵資材に影響の小さい薬剤を選択してください。

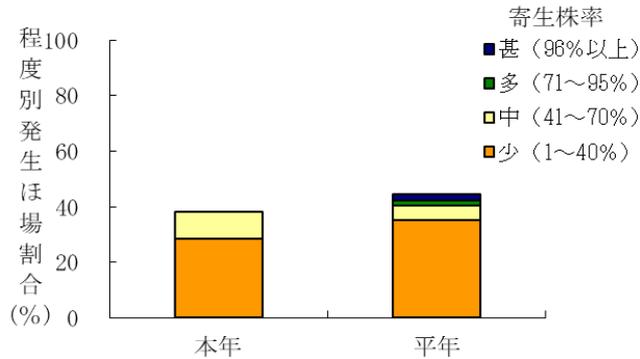


図4 ハダニ類の発生状況

5 コナジラミ類

発生ほ場割合は平年並でした（図5）。寄生密度が高くなるとすす病発生の原因となるので、低密度時から防除を実施してください。

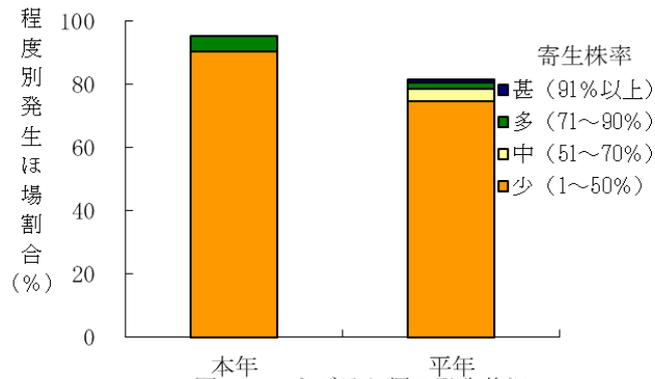


図5 コナジラミ類の発生状況

6 ハスモンヨトウ

巡回調査にて、寄生は確認されませんでした（図6）。成虫の飛来、産卵は11月上旬頃まで続くので、ほ場をよく観察し、寄生が確認された場合は、速やかに防除を行ってください（令和4年9月28日付け防除情報参照）。

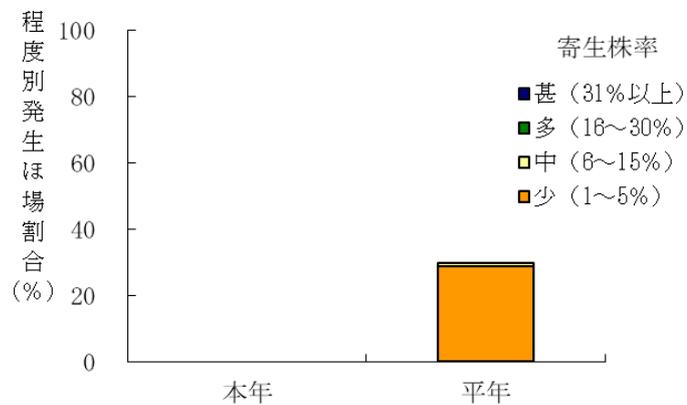


図6 ハスモンヨトウの発生状況

● 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。